

医学教育分野別評価の受審 2022（令和4）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver2.33

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver2.36

はじめに

本学医学部医学科は、2022年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価（2巡目）を受審し、2023年6月1日より7年間の認定期間が開始した。今回、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2024年4月～2025年3月の教育活動について、医学教育分野別評価基準日本語版Ver2.36を踏まえて2025年度の年次報告書を作成した。

1. 使命と学修成果

1. 1 使命

基本的水準 適合
特色ある点 ・富山大学医学部の使命が富山大学医学部規則に明示されている。
改善のための助言 ・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・富山大学医学部の使命を明示した富山大学医学部規則を、入学時に配布する医学部・薬学部履修の手引きに掲載することで、学生が確認できるようにしている。 【今後の計画】 ・引き続き医学部・薬学部履修の手引きの中に、富山大学医学部規則を掲載し、学生が確認できるようにする。
改善状況を示す根拠資料 ・資料1-1-1 医学部・薬学部履修の手引き（2024）（抜粋） ・資料1-1-2 富山大学医学部規則
質的向上のための水準 適合
特色ある点 ・富山大学医学部の使命に医学研究の達成と国際的健康、医療の観点が含まれている。
改善のための示唆 ・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・医学部規則等において、医学研究に関するミッション、国際保健や国際医療に対応できる人材養成を行うと明記し、研究室配属・研究医養成プログラム、医学英語、社会医学系科目、臨床実習を通して能力を養成している。 【今後の計画】 ・国際医療の教育として、提携した海外教育機関において医学、医療を学修できる機会を設けるこ

ととしている。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料1-1-1 医学部・薬学部履修の手引き（2024）（抜粋）
- ・資料1-1-3 令和6年度第2回医学部医学科運営会議議事要録（抜粋）（R6.5.22）及び資料（医学科学生の海外派遣（モナッシュ大学マレーシア校他）について）

1. 2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準 適合

特色ある点

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

・カリキュラムの内容については、令和6年度からカリキュラム開発委員会での学生の意見を踏まえて、医学科教務委員会がまとめ、医学科運営会議で審議される体制とし、カリキュラム開発委員会及び医学科教務委員会は学生の参加を可能とした。教育経費は、医学部に配分された予算から、医学部教授会の意見を聞いて組織としての自律性をもって配分している。

【今後の計画】

・引き続き現行カリキュラムについて、カリキュラム開発委員会、医学科教務委員会、医学科運営会議において検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料1-2-1 医学科カリキュラム開発委員会内規
- ・資料1-2-2 令和6年度第1回カリキュラム開発委員会議事要旨（R6.5.2）
- ・資料1-2-3 令和6年度第1回医学科教務委員会議事要録（R6.4.15）

質的向上のための水準 適合

特色ある点

・富山大学の特徴である「和漢医薬学」や「認知情動脳科学」の医学研究が教育にも利用されている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

・現行カリキュラムの検討には、教員や学生は自由に意見表出ができるほか、アンケート調査をフィードバックしてカリキュラムの検討に活かしている。教員や学生は、図書館やインターネットを利用して、最新の研究成果を探索し利用できる。

【今後の計画】

・引き続き現行カリキュラムの検討を行い、教員ならびに学生の教育・研究の自由な機会を維持する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料1-2-4 全学授業評価共通アンケート（R6年度）
- ・資料1-2-5 医薬学図書館利用案内（富山大学附属図書館HPより）

1. 3 学修成果

基本的水準 部分的適合
特色ある点 ・2019年に「富山大学医学部医学科コンピテンシー」と「富山大学医学部医学科コンピテンシー科目対応表（マイルストーン）」が策定されている。
改善のための助言 ・学生が適切な行動をとることを確実に修得させるために、学則や行動規範等に記載しておくべきである。 ・シラバスに「富山大学医学部医学科コンピテンシー」と「富山大学医学部医学科コンピテンシー科目対応表（マイルストーン）」を学生が容易に理解できるような形式で明示すべきである。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【改善状況】 ・行動規範について： 令和5年度に行動規範を策定し、令和6年度より学生行動規範の運用を開始した。 ・令和6年度に学生のアンプロフェッショナルな行動に関する報告書を作成し、教育的改善のために運用を開始した。令和6年度は8件の報告があり、医学科教務委員会等での共有を通じて、学生への適切なプロフェッショナルリズム教育の促進に取り組んだ。 ・シラバスへのコンピテンシー・マイルストーンの明示について： 令和6年度から新設したカリキュラム開発委員会（令和6年5月2日に第1回開催）において、「富山大学医学部医学科コンピテンシー」と「富山大学医学部医学科コンピテンシー科目対応表（マイルストーン）」を改訂し、令和6年度のシラバス改定の際に、教員へシラバスへの記載を依頼した。令和7年度版シラバスから、新モデル・コア・カリキュラムに対応したコンピテンシーを明示している。 【今後の計画】 ・学生行動規範の周知を継続し、学生のアンプロフェッショナルな行動に関する報告書を利用したプロフェッショナルリズム教育を継続する。 ・今後も、該当する新モデル・コア・カリキュラムに対応したコンピテンシーをシラバスに明示する。
改善状況を示す根拠資料 ・資料1-3-1 医学部医学科学生行動規範 ・資料1-3-2 令和6年度第8回医学部医学科運営会議議事要録及び資料（R6.11.27）（学生の不適切と考えられる態度・行為に関する報告に係る運用について） ・資料1-3-3 令和6年度第10回～第12回医学科教務委員会議事要録（学生の不適切と考えられる態度・行為に関する報告について） ・資料1-3-4 令和7年度シラバス作成時の留意事項
質的向上のための水準 適合
特色ある点 ・卒業時の学修成果である「富山大学医学部医学科コンピテンシー」と、卒後臨床研修終了時の学修成果である「富山大学附属病院卒後臨床研修センター・研修医評価票」に示されたコンピテンシーが関連づけられている。
改善のための示唆

・「富山大学附属病院卒後臨床研修センター・研修医評価票」に示されたコンピテンシーを学生、研修医、教職員に、より一層周知することが望まれる。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・卒後臨床研修プログラム冊子にコンピテンシーを記載するとともに、令和5年度に引き続き、令和6年度オリエンテーション（令和7年3月26日～28日開催）において、周知を行った。 【今後の計画】 ・引き続き、学生、研修医、教職員へコンピテンシーの周知を行う。
改善状況を示す根拠資料 ・資料1-3-5 卒後臨床研修プログラム冊子2025（抜粋）

1. 4 使命と成果策定への参画

基本的水準 部分的適合
特色ある点 ・なし
改善のための助言 ・使命と目標とする学修成果を今後改定する際には、学生の意見を聴取するだけでなく、学生代表が策定の過程に参画すべきである。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【改善状況】 ・令和5年度に医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・カリキュラム開発委員会への学生参画のための内規改訂およびカリキュラム開発委員会設置・内規制定を実施し、令和6年度、各委員会に学生代表が参加した。 【今後の計画】 ・引き続き、学生代表が参画する体制で使命と学修成果の策定について検討していく。
改善状況を示す根拠資料 ・資料1-2-3 令和6年度第1回医学科教務委員会議事録（R6.4.15） ・資料1-4-1 令和6年度第1回医学科カリキュラム評価委員会議事要旨（R7.2.10） ・資料1-2-2 令和6年度第1回医学科カリキュラム開発委員会議事要旨（R6.5.2） ・資料1-4-2 医学科教務委員会内規 ・資料1-4-3 医学科カリキュラム評価委員会内規 ・資料1-2-1 医学科カリキュラム開発委員会内規
質的向上のための水準 部分的適合
特色ある点 ・なし
改善のための示唆 ・使命と目標とする学修成果を今後改定する際には、より広い範囲の教育の関係者から意見を聴取することが望まれる。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【改善状況】 ・令和5年度に医学科教育に関するPDCAサイクル一連で教職員（医学部外：例）教育学部）だけでなく、学生代表から意見を聴取、また策定過程に参画する体制とした。令和6年度より学生代表が

参画して医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・カリキュラム開発委員会の3委員会を運営した。

【今後の計画】

- ・引き続き、学生代表が参画する体制で使命と学修成果の策定について検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料1-2-3 令和6年度第1回医学科教務委員会議事録 (R6. 4. 15)
- ・資料1-4-1 令和6年度第1回医学科カリキュラム評価委員会議事要旨 (R7. 2. 10)
- ・資料1-2-2 令和6年度第1回医学科カリキュラム開発委員会議事要旨 (R6. 5. 2)

2. 教育プログラム

2. 1 教育プログラムの構成

基本的水準 適合

特色ある点

- ・ICT教育活用を推進し、学生の学修意欲を刺激し、支援している。

改善のための助言

- ・「富山大学医学部医学科コンピテンシー」を到達できるように、目標、方略、評価を整理してシラバスに記載すべきである。
- ・「富山大学医学部医学科コンピテンシー科目対応表（マイルストーン）」を見直すなどして、学修成果基盤型教育を実質化すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・富山大学医学部医学科コンピテンシー科目対応表（マイルストーン）が医学部医師キャリアパス創造センターのウェブサイトから参照できる。
- ・令和6年度のシラバス改訂時に教員へ依頼を行い、令和7年度版シラバスから新モデル・コア・カリキュラムに対応したコンピテンシーを明示する。

【今後の計画】

- ・今後も該当する新モデル・コア・カリキュラムに対応したコンピテンシーをシラバスに明示する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料2-1-1 富山大学医学部医学科コンピテンシー科目対応表
<http://www.med.u-toyama.ac.jp/mededu/1-35.%E5%8C%BB%E5%AD%A6%E9%83%A8%E5%8C%BB%E5%AD%A6%E7%A7%91%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%83%94%E3%83%86%E3%83%B3%E3%82%B7%E3%83%BC%E7%A7%91%E7%9B%AE%E5%AF%BE%E5%BF%9C%E8%A1%A8%EF%BC%88%E3%83%9E%E3%82%A4%E3%83%AB%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%BC%E3%83%B3%EF%BC%89.pdf>
- ・資料1-3-4 令和7年度シラバス作成時の留意事項

質的向上のための水準 適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・学位授与要件(ディプロマポリシー)、医学部卒業時のコンピテンシーに加えて、低学年から卒業までのマイルストーンを明示しつつ、生涯教育に関わる科目を6年間のカリキュラムに散りばめる形でカリキュラムを設定している。また、自由科目として研究医養成プログラムも設定している。
- ・必要な医行為(手技)について、網羅的・体系的なシミュレーション教育を行うため、令和6年度、医学部50周年記念事業としてシミュレーションセンターの整備を行った。

【今後の計画】

- ・各科目について、アクティブラーニング要素をできるだけ増やす。
- ・教育方法について、授業評価アンケートなどをもとに適宜見直しを行う。
- ・各科目の担当教員に対するフィードバックとコントロールの体制を整備し、教育内容をチェックしつつ、シラバスの内容を充実させるために定期的なFDを実施する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料2-1-1 富山大学医学部医学科コンピテンシー科目対応表
- ・資料2-1-2 医学部創立50周年記念誌 P52 シミュレーションセンター

2. 2 科学的方法

基本的水準 適合

特色ある点

- ・「研究医養成プログラム」が構築され、多数の学生が参画している。

改善のための助言

- ・各科目で学ぶ科学的手法をシラバスに明記すべきである。
- ・EBMについて、系統的なカリキュラムを構築して各科目のシラバスに明記したうえで、確実に実践すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・各科目のシラバスには、一般学習目標や達成目標にそれぞれの学習項目が明記され、一部の科目では、科学的手法に言及している科目もある。(例：解剖学、生理学実習)
- ・基礎医学教育においては、学体系を基盤としている。また、学問間の水平統合を目的として、一部の教育科目においては基礎医学講座間で連携して実施している(例：基礎医学統合)。また学問間の縦断統合を目的として、臨床医学講座の教員による講義を挟み込むことによって基礎と臨床との統合的な知識が得られるように工夫している教育科目がある(例：多くの3年次臨床科目はまず解剖学・病理学の講義から入る)。
- ・臨床実習前の臨床医学教育においては、臓器器官系を基盤としている。臨床医学系の教育科目では、ユニットの冒頭に基礎医学系教員による講義が行われており、基礎医学の復習と、臨床医学を理解するための必要な基礎医学的知識を教育することで学生の理解が深まるよう工夫している。
- ・令和6年度依頼の令和7年度シラバス改定において、各科目で学ぶことができる科学的手法を明示するよう各教員に依頼した。

【今後の計画】

- ・今後も科学的手法の修得ができるような教育を継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料2-2-1 シラバス(解剖学および解剖学実習)

・資料2-2-2 シラバス（生理学実習） ・資料1-3-4 令和7年度シラバス作成時の留意事項
質的向上のための水準 適合
特色ある点 ・「和漢医薬学」、「認知情動脳科学」などの大学独自の先端的な医学研究の要素が教育に取り入れられている。 ・「研究医養成プログラム」が構築され、多数の学生が参画している。
改善のための示唆 ・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・研究医養成プログラムに各学年の学生が継続して参加しており、令和6年度は12名の学生が修了した。 【今後の計画】 ・引き続き、研究医養成プログラムの充実のために、教員・学生にその有用性を周知していく。
改善状況を示す根拠資料 ・資料2-2-3 シラバス（研究医養成プログラム） ・資料2-2-4 令和6年度研究医養成プログラム修了者名簿

2. 3 基礎医学

基本的水準 適合
特色ある点 ・なし
改善のための助言 ・基礎医学教育において、臨床医学を修得し応用するのに必要となる基本的な科学的知見、概念と手法を理解するのに役立つ内容を、より充実すべきである。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・基礎医学のカリキュラムにおいて、以下の科目では、科学的・技術的・臨床的進歩についての項目を反映させ、現在と将来に社会及び医療で必要となることを組織だてて教育することを意図している。 ・現在、2年次に履修する生理学実習では、臨床医学の学修を念頭において、心電図、呼吸機能（スパイロメトリー）、脳波、腎機能（クレアチニン・クリアランス）の測定方法を学習する。 ・先進的な知識を対象とした授業が医学概論（1年次）とそれぞれのコース（2年次）の中に設けられている。本学が強みとする研究分野について、4年次に「神経・脳科学」の科目を配して、科学的進歩について提示する体制を、カリキュラムとして整えている。 ・3年次に行われる「研究室配属」では、学生全員が医学系の研究室に4週間配属され、日常の研究室活動でのセミナーや抄読会を経験し、研究の進歩に触れる機会を提供している。研究意欲の高い学生は、希望により「研究医養成プログラム」に参加することができ、学生が選択した研究室での研究への参加を通じて先進的な研究を知る機会となっている。 【今後の計画】 ・新コアカリに伴うカリキュラム再編を行い、現在3年次で行われている「研究室配属」につい

て、期間延長を検討する。
改善状況を示す根拠資料 ・資料2-3-1 生理学実習書の手引き ・資料2-3-2 心電図実習書 ・資料2-3-3 呼吸機能検査実習書 ・資料2-3-4 脳波実習書 ・資料2-3-5 腎機能実習テキスト ・資料2-3-6 2025年度研究室ガイド
質的向上のための水準 適合
特色ある点 ・なし
改善のための示唆 ・各科目および医学部全体において、科学的、技術的、臨床的進歩や現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測される内容について、バランスよくカリキュラムに反映させることが望まれる。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・令和6年度よりカリキュラム開発委員会を立ち上げ、科目構成や日程についてアップデートしている。また、大学内において、基礎および臨床医学研究に関する勉強会やセミナーが積極的に開催されており、学部生も参加することが可能である。 【今後の計画】 ・科学的、技術的、臨床的進歩や現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測される内容について、各科目担当の教員と検討し、カリキュラムに反映するように働きかける。
改善状況を示す根拠資料 ・資料2-3-7 大学院特別セミナー（2024年度開催） ・資料2-3-8 卒後臨床研修センターイブニングセミナー（2024年度開催）

2. 4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準 部分的適合
特色ある点 ・なし
改善のための助言 ・行動科学は、1年次だけでなく、各診療科での臨床実習も含め、系統的なカリキュラムを構築してシラバスに明記し、責任者が統括して実践すべきである。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【改善状況】 ・授業科目としての「行動科学」と「こころの科学」に加えて、教養課程から専門課程まで在学中全般にわたって行動科学関連科目が開講されており、行動科学の学修機会が確保されている。 ・令和元年度からは1年次を対象とした「行動科学」において、医師のプロフェッショナルリズムについても解説しており、早期からプロフェッショナルリズムの涵養に工夫している。 ・3年次において、「臨床医学統合（3年次対象）」により、グループワーク・シネメデューションなどの学習方法を用いて、患者中心の医療の方法・パラダイム・プロフェッショナルリズム・医療

倫理など社会科学・行動科学・医療倫理学についての学修を行っている。

- ・4年次科目の「医療プロフェッショナリズム」において行動科学の講義を行っている。
- ・令和6年12月より、行動科学・社会医学・医療法学の臨床的な応用を医療安全部門・医療福祉サポートセンターなどで行う多職種連携実習により学修を行っている。
- ・上記により1年次から6年次まで螺旋型の系統的なプロフェッショナリズム教育・行動科学・社会医学・医療法学に関する学修機会を構築している。これらの講義のシラバスに、令和7年度から新モデル・コア・カリキュラムに基づくコンピテンシーを提示している。

【今後の計画】

- ・日本行動医学会行動医学コアカリキュラム作成ワーキンググループによる「医学部教育における行動科学カリキュラムの提案」(2016)をもとに、令和7年度から単位化された4年次科目の「医療プロフェッショナリズム」において行動科学に関する講義を設けて、カリキュラムのさらなる改良を実施する。
- ・内容について定期的に点検し、近年の科学的、技術的そして臨床的進歩をカバーできるよう努める。
- ・今後講義内容に重複が生じることのないよう、引き続き、授業科目間での連携や調整を行う。
- ・プロフェッショナリズム教育については、入学直後から卒業までの縦断的な教育プログラムを構築するよう、協議を継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料2-4-1 シラバス（行動科学）
- ・資料2-4-2 シラバス・日程表（臨床医学統合（3年次対象））
- ・資料2-4-3 シラバス（医療プロフェッショナリズム）
- ・資料2-4-4 シラバス・資料（多職種連携実習）

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

・行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学に関し、各分野において科学的、技術的そして臨床的進歩、現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されること、人口動態や文化の変化を踏まえて科目のカリキュラムを調整することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・人口動態の変化を踏まえた講義を行っている。
- ・令和5年度、令和6年度と継続して、地域枠・特別枠の3年次学生および希望する学生を対象とした、社会医学に焦点を当てたサマースクールを実施した。令和6年度サマースクールでは地域の人口動態の変化が想定されている地域の病院を利用し、学生自身による情報収集と地域住民との対話、地域でのフィールドワークの組み合わせにより、生活者としての視点で有用な地域の社会的資源の探索を行うことを通じて、社会医学的な視点からの地域医療・介護・福祉について理解できるような教育を提供した。
- ・3年次において、「臨床医学統合（3年次対象）」により、グループワーク・シネメデューケーションなどの学習方法を用いて、患者中心の医療の方法・パラダイム・プロフェッショナリズム・医療倫理など社会科学・行動科学・医療倫理学についての学修を行っている。
- ・令和6年度12月から医療安全部門・医療事務部門などの多職種と主に臨床実習を行う多職種連携実習を導入した。この実習では、社会医学・医療法学の視点と多職種連携・協働を臨床の現場を

通じて学ぶことができる。

【今後の計画】

・地域住民との関わりとフィールドワークにより地域社会を理解することを通じて地域社会の変化とその対処を学ぶ教育として、サマースクールを毎年継続して実施する。これにより、社会や医療システムの時間的な変化に対応できるような社会医学的な視点の涵養に取り組み、臨床実習中の社会医学・医療法学などの学習を行う多職種連携実習と合わせて螺旋型のカリキュラムとして発展させる。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料2-4-5 医療学入門（1年次）シラバス
- ・資料2-4-6 サマースクール関係資料（令和6年度）
- ・資料2-4-2 シラバス・日程表（臨床医学統合（3年次対象））
- ・資料2-4-4 シラバス・資料（多職種連携実習）

2. 5 臨床医学と技能

基本的水準 部分的適合

特色ある点

・臨床実習の評価がMoodle上でオンライン化され、迅速にフィードバックして、学生の技能修得を促進している。

改善のための助言

・卒業後に適切な医療的責務を果たせるように、十分な知識、臨床技能、医療専門職としての技能の修得に資するように診療参加型臨床実習をより充実すべきである。

・臨床現場において、計画的に患者と接する教育プログラムを教育期間内に十分持つべきである。

・健康増進と予防医学の体験を確実に実施すべきである。

・学生が経験した症候・疾患および医行為の解析結果を活用して、継続的に臨床実習の教育内容や主要な診療科で学修する時間を充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

・卒業後に求められる医療的責務に応えられるように、令和6年度開始の臨床実習中の各診療科の実習週数を変更し、主要な診療科での学修時間の拡充・適正化に取り組んだ。これにより、医療専門職としての技能の習得が実現できるような診療参加型臨床実習の充実化を実現した。

・卒業後に適切な医療的責務を果たすために重要な知識および臨床技能の修得のため、卒後臨床研修センターが中心となり、学生向けの手技指導を定期的に行い、診療向上参加型臨床実習の充実に努めている。加えて、研修医向けのイブニングセミナー（輸液管理、抗生剤の使用法、各科の救急疾患対応など広い分野の講義）を学生にも開放し、学生から研修医にスムーズに移行できるよう配慮している。

・医学部医学科の臨床実習（クリニカルクラークシップ）では学生評価について、「卒前学生医用オンライン臨床教育評価システム」（CC-EPOC）を導入し、評価・フィードバックに活用することとした。それらをデータ化することで、解析および臨床実習における不足点を補完できるように分析に取り組んでいる。CC-EPOCを利用したカリキュラム評価の結果も踏まえ、令和6年12月以降、シミュレーション実習として、採血などの侵襲の大きな医行為を中心にトレーニングを導入した。臨床実習では患者安全などの観点から実施機会が限定的な侵襲のある医行為についても、卒業後に求められるコンピテンシーの修得に努めている。

・臨床実習中には、和漢診療科などをはじめとして定期的な患者診察の機会を提供することで計

画的に十分な関わりを提供できる教育プログラムとしている。

・産婦人科・乳腺外科では遺伝性乳がん卵巣がん症候群患者における予防的乳腺切除および予防的卵巣卵管切除を学習項目として臨床実習において患者を担当させ、予防医学と共に疾患リスクを下げるための方策を学ぶ機会を提供している。

【今後の計画】

・CC-EPOCを利用したIR機能の継続的实施により、実習期間の適正化・拡充による診療参加型臨床実習の充実化についてのカリキュラム評価を行い、継続・反復的なカリキュラムの改善を予定している。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料2-5-1 令和6年度第3回医学部医学科運営会議議事要録(R6. 6. 26)及び資料
- ・資料2-3-8 卒後臨床研修センターイブニングセミナー(2024年度開催)
- ・資料2-5-2 令和6年度第2回医学部医学科FD資料(R6. 11. 11 CC-EPOC分析データ:医行為実施経験ほか)

質的向上のための水準 **部分的適合**

特色ある点

- ・学生が経験した症候・疾患および医行為の解析結果を活用して、経験が不足している領域に対してシミュレーション教育を行っている。
- ・ICTを活用したカルテ記載演習システムを構築し、実践していることは評価できる。

改善のための示唆

- ・2年次、3年次において患者と接触する機会を持つことが望まれる。
- ・低学年からの計画的な教育体制をより充実することにより、さまざまな臨床技能教育が行われることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・令和5年度、令和6年度と継続して、3年次の特別枠・地域枠の学生と希望する学生を対象として社会医学に焦点を当てたサマースクールを地域の病院において実施した。同病院への関わりのある地域住民や患者等との医学生のディスカッションを行い、会場周辺のフィールドワークを行うことで、早期から患者となりうる地域住民への多様な関わりを提供した。令和7年度以降も同様に実施予定である。
- ・希望する学生を対象として、救急科などでの見学型の学習機会を提供している。

【今後の計画】

- ・サマースクールの参加者の拡充により早期から地域住民・患者への関わりの機会を引き続き提供する。
- ・令和7年以降に、2年次・3年次の学生の臨床への見学型実習の導入(救急車同乗など)を計画している。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料2-4-6 サマースクール関係資料(令和6年度)

2. 6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準 **適合**

特色ある点

- ・なし

改善のための助言 ・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・学生に配布している「医学部履修・学生生活の手引き」に、全体的な講義や実習の概要、履修内容や全体的な科目構成を明記している。各科目の内容を記したシラバスは、ヘルンシステムを使用してウェブ上で公開している。 ・令和6年度よりカリキュラム開発委員会を発足させ、教育プログラムの評価、改良を図っている。この委員会には各学年から学生が委員として参加し、意見交換を行っている。 【今後の計画】 カリキュラム開発委員会を通じて教育プログラムの評価、改良の活動を充実させる。
改善状況を示す根拠資料 ・資料1-2-2 令和6年度第1回医学科カリキュラム開発委員会議事要旨 (R6.5.2)
質的向上のための水準 部分的適合
特色ある点 ・補完医療として、「和漢医薬学」教育が充実している。
改善のための示唆 ・すべての卒業生が「富山大学医学部医学科コンピテンシー」を確実に修得できるように、関連する科学・学問領域および課題のより一層の水平的統合を推進することが望まれる。 ・基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合をさらに推進することが望まれる。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【改善状況】 ・カリキュラム開発委員会、医学科教務委員会によるカリキュラム内での学修の水平統合推進と垂直統合の推進と教員の取り組みの支援に取り組んでいる。また、水平統合・垂直統合の実施を令和7年度のシラバスから明示することで、より体系的な水平統合・垂直統合のカリキュラムへの実装に取り組んでいる。 ・基礎医学教育においては、学体系を基盤としている。また、学問間の水平統合を目的として、一部の教育科目においては基礎医学講座間で連携して実施している教育科目がある(例:基礎医学統合)。また学問間の縦断統合を目的として、臨床医学講座の教員による講義を挟み込むことによって基礎と臨床との統合的な知識が得られるように工夫している教育科目がある(例:多くの3年次臨床科目はまず解剖学・病理学の講義から入る)。 ・臨床実習前の臨床医学教育においては、臓器器官系を基盤としている。臨床医学系の教育科目では、ユニットの冒頭に基礎医学系教員による講義が行われており、基礎医学の復習と、臨床医学を理解するための必要な基礎医学的知識を教育することで学生の理解が深まるよう工夫している。 ・令和6年度依頼の令和7年度シラバス改定の際に、教員に垂直統合の実績の記載を依頼した。 【今後の計画】 ・令和6年度依頼の令和7年度シラバス改定における水平・垂直統合の実施数などを踏まえて、令和7年度以降のカリキュラム開発へのフィードバックを行い、さらなる水平・垂直統合の発展に取り組む。 ・臨床実習における臨床医学と基礎医学・行動科学・社会科学との垂直統合や、他領域との水平統合についてもシラバスを通じた把握に令和7年度以降取り組み、カリキュラム全体での水平統合・垂直統合の促進を継続する。また、臨床実習における水平統合・垂直統合についてのアンケート調査などを実施し、多面的な現状把握に取り組む。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料1-3-4 令和7年度シラバス作成時の留意事項

2. 7 教育プログラム管理**基本的水準** **部分的適合****特色ある点**

- ・なし

改善のための助言

- ・カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ組織を明確に定め、その組織に学生の代表を含むべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画**【改善状況】**

- ・医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会の内規改訂・カリキュラム開発委員会の設置と内規制定を令和5年度に行い、カリキュラムの立案と実施に関する責任と権限を明確化し、学生代表の参画を内規に示した。令和6年度、各委員会に学生代表が参加した。

【今後の計画】

- ・医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会及びカリキュラム開発委員会においてカリキュラム開発の立案と実施を組織的に推進実施する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料1-2-3 令和6年度第1回医学科教務委員会議事録 (R6. 4. 15)
- ・資料1-4-1 令和6年度第1回医学科カリキュラム評価委員会議事要旨 (R7. 2. 10)
- ・資料1-2-2 令和6年度第1回医学科カリキュラム開発委員会議事要旨 (R6. 5. 2)
- ・資料1-4-2 医学科教務委員会内規
- ・資料1-4-3 医学科カリキュラム評価委員会内規
- ・資料1-2-1 医学科カリキュラム開発委員会内規

質的向上のための水準 **部分的適合****特色ある点**

- ・なし

改善のための示唆

- ・カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ組織を明確に定め、その組織に広い範囲の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画**【改善状況】**

- ・医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・カリキュラム開発委員会への学生の代表の参加に関する内規改訂・制定を実施し、令和6年度、各委員会に学生代表が参加した。
- ・医学科所属外の教員も構成員とすることについて、内規で規定されている。

【今後の計画】

- ・医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・カリキュラム開発委員会へ、必要に応じてさらに広い範囲の教育関係者の代表者の参加について今後も適宜検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料1-2-3 令和6年度第1回医学科教務委員会議事録 (R6. 4. 15)
- ・資料1-4-1 令和6年度第1回医学科カリキュラム評価委員会議事要旨 (R7. 2. 10)

- ・資料1-2-2 令和6年度第1回医学科カリキュラム開発委員会議事要旨（R6.5.2）
- ・資料1-4-2 医学科教務委員会内規
- ・資料1-4-3 医学科カリキュラム評価委員会内規
- ・資料1-2-1 医学科カリキュラム開発委員会内規

2. 8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準 適合

特色ある点

・卒前教育と卒後の教育・臨床実践との間の連携を適切に行うために、医師キャリアパス創造センターが設置され、教育改善のために活発に活動していることは評価できる。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

・医師キャリアパス創造センターには医学教育部門・卒後臨床研修部門・専門医養成支援部門が含まれ、卒後臨床研修センターの毎月の会議に、医学教育学教授、卒後臨床研修センター長、専門医養成支援センター長が参加し、卒前一初期研修医—専攻医までのシームレスな教育体制をとっている。初期臨床研修の観点から必要な学生教育や実践的手技の取得、また専門医になるために必要な知識を得る機会の設定などを会議にて議論し、実践している。

【今後の計画】

・シームレスな教育を実践するため、学生—研修医—指導医の屋根瓦式教育体制を作る機会を増やしている。実際には、初期臨床研修医を（一部）講師とした学生向けのハンズオンセミナーの実践、学生向け初期臨床研修プログラムの研修医による説明、初期臨床研修医向けセミナーの学生参加による先行学習の更なる推進などを行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料2-3-8 卒後臨床研修センターイブニングセミナー（2024年度開催）

質的向上のための水準 適合

特色ある点

・なし

改善のための示唆

・卒業生が将来働く環境からの情報をより多く収集し、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

・卒後臨床研修部門・専門医養成支援部門から医学教育におけるアンケートを実施している。しかしながら、アンケートの回収率が高くなく、有益な情報が十分に得られていない。

【今後の計画】

・アンケートの回収率を高める方法や、ホームカミングデー等のイベント、同窓会などとの連携を行い、教育プログラムに関する情報収集量を増やす取り組みを行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料2-8-1 初期研修説明会アンケート

3. 学生の評価

3. 1 評価方法

基本的水準 **部分的適合**

特色ある点

- ・臨床実習において、知識・技能・態度の形成的評価のための実習ノートを導入している。

改善のための助言

- ・追再試験の回数をシラバス等において開示すべきである。
- ・再評価（旧 再試験）の概念を、学生と教職員に対してより周知徹底すべきである。
- ・6年間の医学部教育を通じて態度評価をさらに充実させるべきである。
- ・評価方法および結果に対して生じうる利益相反に関する各種規約を明示すべきである。
- ・6年を通じて学内で行われる評価が、試験出題者以外の専門家によって吟味される仕組みを構築すべきである。
- ・評価結果に対する疑義申し立て制度を実質化すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・再評価（旧 再試験）の概念については、医学部学則に記載され、履修の手引きに転載されることで学生と教職員に周知されている。また、平成30年度第3回医学科運営会議で再評価の実施に関する申し合わせが示されている。
- ・6年間の医学部教育を通じて態度評価の充実を目指し、医学教育学講座、医師キャリアパス創造センター、医学科教務委員会、医学科運営会議で検討を続けている。
- ・評価方法および結果に対して生じうる利益相反に関しては、各科目の担当教員の評価をもとに、医学科教務委員会、医学部教授会の審議により、「合議」で最終的な意思決定を行っていることから、利益相反状態にある教員による最終的な意思決定への影響は回避される仕組みが整っている。
- ・6年を通じて学内で行われる評価が、試験出題者以外の専門家によって吟味される仕組みを構築すべく、医学教育学講座、医師キャリアパス創造センター、医学科教務委員会、医学科運営会議で討議を行なっている。令和6年度より、カリキュラム評価委員会・カリキュラム開発委員会・医学科教務委員会の3委員会の内規を整備し、6年間を通じた評価の検討をカリキュラム改善・実施に繋げる仕組みが構築された。
- ・評価結果に対する疑義申し立て制度については、全学共通の異議申し立て制度が存在し、入学時に配布する学生向けハンドブック（キャンパスガイド）により周知されている。
- ・成績評価に対する異議申し立てについては、ホームページ上で一部はすでに提示されている。
資料3-1-1 成績評価に対する異議申し立てについて
(<https://www.u-toyama.ac.jp/wp/wp-content/uploads/evaluation-objection.pdf>)
- ・態度評価については、低学年では実習態度、高学年ではmini-CEX、360度評価など、コンピテンシーおよびマイルストーンに応じて多面的な評価を含め適切な評価を行なっている。mini-CEXは、1年間に150件を超える実施が得られている。
- ・IR機能の強化として、CC-EPOCなどを利用した臨床実習の評価を医学教育学講座、医師キャリアパス創造センター、医学科教務委員会、医学科運営会議において検討を行っており、CC-EPOC分析結果は、医学部医学科FDで教員に周知を行っている。また、カリキュラム評価委員会の新設により、6年を通じて学内で行われる評価を継続的に評価し、カリキュラム開発委員会・医学科教務委

員会へフィードバックする仕組みが構築された。

- ・追再試験の回数について、シラバス上全ての教科で記載・開示するため、令和6年度依頼の令和7年度シラバス改定の際に教員に記載を依頼した。

【今後の計画】

医学科教務委員会で以下について検討し実施を予定する。

- ・複数の会議での「合議」で多面的に検討されることで、評価方法および結果に対して生じうる利益相反が回避されるようになっていることについて、令和7年度以降の履修の手引きへの記載を通じて学生に明示を検討・予定する。
- ・再評価（旧 再試験）の概念について再度申し合わせを医学科運営会議で確認し、令和7年度に依頼する令和8年度シラバス改訂に際して再評価の概念を統一して使用するよう教員に周知を予定する。また令和7年度履修の手引きへの記載を通じて、教員だけでなく学生にも周知徹底に取り組む。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料2-5-2 令和6年度第2回医学部医学科FD資料 (R6.11.11 CC-EPOC分析データ：医行為実施経験ほか)
- ・資料3-1-1 成績評価に対する異議申立てについて
- ・資料1-3-4 令和7年度シラバス作成時の留意事項

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

- ・新型コロナウイルス感染症の流行下における臨床実習の代替手段として、オンラインシミュレーション実習を導入し、学生によるピア評価を行っている。

改善のための示唆

- ・個々の科目における評価に対して、その信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。
- ・mini-CEXや360度評価などの診療現場における学生評価が、より多くの診療科で実施されることが望まれる。
- ・評価の公平性、質および透明性を高めるために、学内試験において試験出題者以外の評価者の活用を進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・個々の科目における評価に対して、その信頼性と妥当性については、医学教育学講座が中心となり、医師キャリアパス創造センター、医学科教務委員会、医学科運営会議とともに検証を行っている。その結果についても必要に応じて発表などを行っている。特に内科統合試験について信頼性・妥当性を検討している。
- ・mini-CEXなどの診療現場における学生評価が、どの診療科で行われているのか、実施数などを医師キャリアパス創造センターが中心となって、毎年確認している。CC-EPOCは令和5年度より導入されている。
- ・複数の講座が関与する試験においては、自身の出題範囲外についても確認を行い、フィードバックを行うことで、評価の公平性、質および透明性を高めている。
- ・CC-EPOCを利用した多面的評価実施について取り組んでいる。令和6年度第2回医学部医学科FDでは、これまでの実施診療科や実施内容、評価項目について、情報共有を行った。mini-CEXや360度評価などの診療現場における学生評価の現状への理解向上が期待される。
- ・個々の科目における評価に対して、可能な限り複数の評価者・複数の評価方法による評価、信頼性・妥当性の検討を行っていることを明示するため、令和6年度依頼のシラバス改定において、当

該科目における成績評価方法の中に、評価者（評価作成者）が授業を担当する全教員であることの記載を教員に依頼し、令和7年度シラバスから明示している。

【今後の計画】

- ・mini-CEXなどの診療現場における学生評価がより多くの診療科で実施されるよう、令和7年度に医学科教務委員会と医学科運営会議において、学内外の実習先におけるCC-EPOCやmini-CEXの入力状況を共有したことに加えて、CbDとminiCEXの実践に関するFDを実施予定である。
- ・令和7年度のカリキュラム評価委員会において、本件に関連する事項（評価の妥当性・信頼性検証と明示、技能・態度に係る多面的な評価としてのmini-CEX、360度評価の拡充、試験出題者以外の外部評価者による学内試験への参加）の議題を取り上げ、引き続き検討を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料2-5-2 令和6年度第2回医学部医学科FD資料 (R6. 11. 11 CC-EPOC分析データ：医行為実施経験ほか)
- ・資料1-3-4 令和7年度シラバス作成時の留意事項

3. 2 評価と学修との関連

基本的水準 部分的適合

特色ある点

- ・卒業までに学生が修得すべきコンピテンシーを年次進行のカリキュラムに合わせて示し、所定の単位を各学年で取得することでマイルストーンが達成される評価体系として、「医学部医学科コンピテンシー科目対応表」を整備している。

改善のための助言

- ・学生が、学修成果を段階的に修得していることを確実に保証する評価を行うべきである。
- ・形成的評価を適切に用いて、学生が自らの成長に気づくことができるような評価を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・卒業までに修得すべきコンピテンシーが定められている。コンピテンシーは年次進行のカリキュラムに合わせて示されている。所定の単位を各学年で取得すると、マイルストーンが達成され、修得すべきコンピテンシーが得られる評価体系となっている。また、学修成果可視化（積算能力評価）によりレーダーチャートが示されることによって、学生は自身の学修成果が段階的に評価されていることを確認できる。カリキュラム開発委員会により新モデル・コア・カリキュラムに対応するマイルストーンが設定されており、各授業・実習などに応じたコンピテンシーとマイルストーンは令和7年度シラバスから明示している。
- ・教養教育、基礎医学教育、臨床医学教育の全般にわたって、小テストの実施やレポート提出、シラバスに沿った定期試験問題の出題をするなどで、学生の日常的な学習を促進するなど、形成的評価が行われている。また、臨床実習ではmini-CEXなどを用いて学修成果の形成的評価を行なっている。1年間に150件を超えるmini-CEXによるWork Place Based Assessmentによる形成的評価が実施されており、学生が自身の成長を把握し、今後の課題を発見できるような臨床実習が実施されている。
- ・形成的評価（mini-CEXや360度評価など）・フィードバック実施の実績について、医学部医学科FDにおいて多くの教員・指導医へ共有した。
- ・学外も含めた全診療科において、CC-EPOCによる統一された“診療の基本評価”を行っており、学生自身が経時的変化・成長を自覚できるような評価を行っている。

・令和7年度シラバスには、新モデル・コア・カリキュラムに対応するコンピテンシーを明示しており、形成的評価（mini-CEXや360度評価など）と合わせて、学生が学修成果を段階的に修得していることを自覚できるような取り組みを行った。

【今後の計画】

・臨床実習では、mini-CEXなどの形成的評価の実施がより広い診療科・診療状況において実施されるように拡充を継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料1-3-4 令和7年度シラバス作成時の留意事項
- ・資料2-5-2 令和6年度第2回医学部医学科FD資料（R6.11.11 CC-EPOC分析データ：医行為実施経験ほか）

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

- ・基本的知識の修得と統合的学修を促進するために、試験回数や方法を適正化することが望まれる。
- ・卒業試験を含む全ての試験において、試験問題の開示などによって学生に適切にフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・基礎医学については、非常に広い範囲での知識の修得を助けるため小テスト、中間試験を導入している。また、基礎医学統合による基本的知識の習得と合わせて統合的学修に取り組んでいる。臨床医学では臓器別に水平統合を行っているが、試験でも様々な講座の教員が出題し、統合的学修を促進している。卒業試験についてはすでに、内科統合試験（内科領域のほかに和漢診療科、総合診療科も含む。）を実施している。また、外科系については、臨床実習を用いた評価など内容に合わせて単独で実施している。
- ・試験問題の開示は多くの試験で行われている。

【今後の計画】

- ・統合的学習の促進に今後も取り組む。
- ・試験問題開示や解答の公開に伴うメリットとデメリットやその方法、またその他の適切なフィードバック方法の有無については、令和7年度のカリキュラム評価委員会において、検討を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料3-2-1 シラバス（基礎医学統合）
- ・資料2-4-2 シラバス・日程表（臨床医学統合（3年次対象））
- ・資料3-2-2 シラバス（臨床医学統合 4年次対象）
- ・資料3-2-3 卒業試験日程

4. 学生

4. 1 入学方針と入学選抜

基本的水準 適合

特色ある点 ・従来は医学部長の諮問機関として位置づけられていた「医学部入試懇談会」を改組して2016年6月に「医学部入学試験委員会」を設置し、入学選抜の適正かつ円滑な実施のみならず、入試改善に向けた取り組みを行っている。 ・身体に不自由がある学生の入学に組織的に対応し、設備のバリアフリー化など、学修環境の整備を進めている。
改善のための助言 ・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・医学科では引き続き入試改善の取組を行っており、2024年度入試においても、引き続き、入学定員の10人増員を申請し、総合型選抜Ⅱ（富山県特別枠）として実施し、2025年度も同様に実施することを計画している。 【今後の計画】 同上
改善状況を示す根拠資料 ・資料4-1-1 富山大学HP（2025年度入試富山県特別枠） https://www.u-toyama.ac.jp/admission/undergraduate-exam/number/
質的向上のための水準 部分的適合
特色ある点 ・医師キャリアパス創造センターのIR機能を活用して、学修成果に関連した選抜プロセスを見直す体制を構築している。
改善のための示唆 ・入学決定に対する疑義申し立て制度を定め、明示することが望まれる。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【改善状況】 ・入試情報は、①合格者成績の開示、②個人成績の開示があり、以下のホームページで入試関連の問い合わせ先を開示している。 資料4-1-2 富山大学インターネット出願ページ (https://e-apply.jp/ds/toyama-u/) 資料4-1-3 富山大学入試情報開示 (https://www.u-toyama.ac.jp/admission/undergraduate-exam/info/) ・令和6年度には、入学決定に対する疑義申し立て制度導入や提示方法の全学での検討に必要な素案作成のため、第72回国立大学医学部・医科大学事務協議会において他大学の情報収集を行った。 【今後の計画】 ・入学決定に対する疑義申し立て制度導入や提示方法は、医学部のみでなく大学全体に関わる課題であり、全学的な検討を進めていく。
改善状況を示す根拠資料 ・資料4-1-2 富山大学インターネット出願ページ https://e-apply.jp/ds/toyama-u/ ・資料4-1-3 富山大学HP（入試情報開示・入試統計） https://www.u-toyama.ac.jp/admission/undergraduate-exam/info/ ・資料4-1-4 第72回国立大学医学部・医科大学事務協議会資料抜粋（承合事項4）

4. 2 学生の受け入れ

基本的水準 適合
特色ある点 ・なし
改善のための助言 ・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・特記事項なし 【今後の計画】 ・特記事項なし
改善状況を示す根拠資料 ・該当なし
質的向上のための水準 適合
特色ある点 ・IRの結果や地域の医師確保に資する大学の使命に基づき、選抜方法を見直している。
改善のための示唆 ・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・引き続きIR結果を活用し、選抜方法を見直していく。 【今後の計画】 ・附属病院地域医療総合支援学講座とも連携を行い、県内医師不足状況を踏まえつつ、選抜方法見直しに役立てる。
改善状況を示す根拠資料 ・資料4-2-1 地域医療総合支援学講座HP https://www.hosp.u-toyama.ac.jp/dcms/index.html

4. 3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準 適合
特色ある点 ・クラス担任のほかに、6 学年を通した縦割り制度のグループ担任を置き、学修上の問題を抱えた学生や長期間のケアが必要な学生を支援する体制を整えている。
改善のための助言 ・カウンセリング制度に関与する教員間の連携をさらに強化すべきである。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・縦割りグループ制度を活用し、学生とのコミュニケーションの機会を確保している。 【今後の計画】 ・縦割りグループごとに学務担当者に毎年報告を行いその情報を共有するシステムを検討する。
改善状況を示す根拠資料

・資料1-2-3 令和6年度第1回医学科教務委員会議事要録（R6.4.15）（令和6年度グループ担任（案）について）
質的向上のための水準 適合
特色ある点 ・クラス担任やグループ担任（縦割り制度）に加えて、医師キャリアパス創造センターおよび地域医療総合支援学講座が、キャリアガイダンスとプランニングについてカウンセリングを行っている。
改善のための示唆 ・学生の教育段階における学修上の問題点を抽出し、それに応じたカウンセリングを提供することが望まれる。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・現状、クラス、グループ担任が主に生活上・学修上の問題点に対応しており、引き続き医師キャリアパス創造センター等と連携して活動を継続する。 【今後の計画】 ・学生の教育段階における学修上の問題点を学務担当者、教務委員長で共有し、必要に応じて適宜担任、医師キャリアパス創造センター等と連携してカウンセリングを行う。
改善状況を示す根拠資料 ・該当なし

4. 4 学生の参加

基本的水準 部分的適合
特色ある点 ・なし
改善のための助言 ・使命の策定、教育プログラムの策定、管理および学生に関する諸事項を審議する委員会への学生の参画を実質化すべきである。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【改善状況】 ・使命の策定、教育プログラムの策定、管理および学生に関する諸事項の審議への学生参画を実質化するため、令和5年度に、医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会の内規改訂、カリキュラム開発委員会の設置と内規制定により、学生の参加が明示された。令和5年度時点で、カリキュラム評価委員会へ学生の参画を得ており、令和6年度より医学科教務委員会・カリキュラム開発委員会へ学生の参画を得た。 【今後の計画】 ・今後も教育プログラム策定・管理・学生に関する諸事項審議に関して、医学生の参画をさらに発展させる。
改善状況を示す根拠資料 ・資料1-2-3 令和6年度第1回医学科教務委員会議事録（R6.4.15） ・資料1-4-1 令和6年度第1回医学科カリキュラム評価委員会議事要旨（R7.2.10） ・資料1-2-2 令和6年度第1回医学科カリキュラム開発委員会議事要旨（R6.5.2） ・資料1-4-2 医学科教務委員会内規

・資料1-4-3 医学科カリキュラム評価委員会内規 ・資料1-2-1 医学科カリキュラム開発委員会内規
質的向上のための水準 適合
特色ある点 ・なし
改善のための示唆 ・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・特記事項なし 【今後の計画】 ・特記事項なし
改善状況を示す根拠資料 ・該当なし

5. 教員

5. 1 募集と選抜方針

基本的水準 適合
特色ある点 ・なし
改善のための助言 ・基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学の教員の活動を、明示されている責務を指標として十分にモニタすべきである。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・基礎・臨床医学の教員の活動の特徴や責務に応じたエフォートに基づき教員業績評価を行い、教員の活動をきめ細やかに把握モニタリングしている。 【今後の計画】 ・特記事項なし
改善状況を示す根拠資料 ・該当なし
質的向上のための水準 適合
特色ある点 ・なし
改善のための示唆 ・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・特記事項なし 【今後の計画】

・特記事項なし
改善状況を示す根拠資料
・該当なし

5. 2 教員の活動と能力開発

基本的水準 部分的適合
特色ある点 ・評価の基準を明確に示したうえで教員業績評価を実施していることは評価できる。
改善のための助言 ・すべての教員がカリキュラム全体を十分に理解できるシステムを構築すべきである。 ・全教員のFaculty Development (FD) への参加をさらに促進して、教員の能力開発を推進すべきである。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【改善状況】 ・医学教育学部門により、カリキュラムや教育理論の理解向上を目的とした医学部医学科FDを実施している。同期下で行う対面・オンライン併用による参加者の拡充に加えて、講義動画のアーカイブ化により非同期学習へ活用している。 ・令和6年度も継続して、全教員対象にFDを積極的に実施した。第1回～第3回医学部医学科FDでは、フィードバック技法、CC-EPOC分析データ（医行為実施経験ほか）を広く教員に示し、教員の医学教育実施能力の向上に継続的に取り組んだ。 【今後の計画】 ・令和7年度から、毎年度、医学教育推進専門委員会、カリキュラム開発委員会の初回会議において、「富山大学医学部医学科カリキュラムマップ」を資料として配布し、幅広い教員・指導医に医学教育の課題共有・教育能力の向上を継続する。また、医学部医学科FDについても、引き続き年3回、医学教育推進専門委員会と同日連続開催とすることで、教員のさらなる参加を促進する。
改善状況を示す根拠資料 ・資料5-2-1 令和6年度第1～3回医学部医学科FDポスター ・資料5-2-2 令和6年度第1回医学部医学科FD資料（R6.6.21） ・資料2-5-2 令和6年度第2回医学部医学科FD資料（R6.11.11 CC-EPOC分析データ：医行為実施経験ほか） ・資料5-2-3 令和6年度第3回医学部医学科FD資料（R7.1.21）
質的向上のための水準 適合
特色ある点 ・なし
改善のための示唆 ・カリキュラムのそれぞれの構成に関連して教員と学生の比率が適切であることを考慮することが望まれる。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・カリキュラム評価委員会・カリキュラム開発委員会・医学科教務委員会の3委員会の設置により、カリキュラムを構成する講義・実習など授業形式や達成すべきコンピテンシーに応じた教員の適正配置・配分なども含めて検討できる体制を整備した。

【今後の計画】 ・カリキュラム評価委員会・カリキュラム開発委員会・医学科教務委員会の3委員会の整備により、適正な教員の配分・配置・参加などについて継続的に検討する。
改善状況を示す根拠資料 ・資料1-4-3 医学科カリキュラム評価委員会内規 ・資料1-2-1 医学科カリキュラム開発委員会内規 ・資料1-4-2 医学科教務委員会内規

6. 教育資源

6. 1 施設・設備

基本的水準 <u>適合</u>
特色ある点 ・図書館および一部の情報処理実習室の使用が24時間可能である
改善のための助言 ・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・特記事項なし 【今後の計画】 ・特記事項なし
改善状況を示す根拠資料 ・該当なし
質的向上のための水準 <u>適合</u>
特色ある点 ・医薬イノベーションセンターに30室のセミナー室が整備され、小人数グループ学習に活用されている。
改善のための示唆 ・シミュレーション教育設備の計画的な整備が望まれる。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・令和6年度、医学部50周年記念事業として、シミュレーションセンターの整備を行った。 【今後の計画】 ・今後もシミュレーション教育設備の整備を進めていく。
改善状況を示す根拠資料 ・資料2-1-2 医学部50周年記念誌 P52 シミュレーションセンター

6. 2 臨床実習の資源

基本的水準 <u>部分的適合</u>
特色ある点 ・なし

改善のための助言 ・各診療科で経験できる患者数と症候・疾患分類について学生の臨床経験を確実に把握し、臨床実習の教育内容、教育期間および教育病院を再構築すべきである。 ・学外臨床実習施設における指導者の質を担保すべきである。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【改善状況】 ・CC-EPOC利用による臨床経験の把握精度向上、経験した症候・疾患について、診療科・病院ごとの学修内容の把握に取り組んでいる。 ・令和5年度に臨床実習の教育内容・教育期間の再構築を検討し、令和6年度より臨床実習の教育内容・教育期間について再構築した。 ・令和6年度に臨床実習に関して、学外病院の指導医向けにFDを開催した。 【今後の計画】 ・医学科教務委員会・カリキュラム開発委員会・カリキュラム評価委員会の各委員会において、臨床実習の質向上や学外臨床実習施設の指導者向けのFDについて継続的に検討する。 ・令和7年度には、医学科教務委員会を主体として、診療参加型臨床実習のさらなる促進に向けた指導医向けアンケートなどに取り組み、臨床実習の現状の特長・課題の評価を予定している。 ・学外臨床実習施設の指導の質向上のため、学外教員向けのCC—EPOCを利用などのFDを行う。また、令和7年度以降は、学内向けFDに、学外臨床実習施設の関係者も出席することが出来るような開催方法の調整を進める。
改善状況を示す根拠資料 ・資料5-2-2 令和6年度第1回医学部医学科FD資料 (R6. 6. 21) ・資料2-5-2 令和6年度第2回医学部医学科FD資料 (R6. 11. 11 CC-EPOC分析データ：医行為実施経験ほか) ・資料5-2-3 令和6年度第3回医学部医学科FD資料 (R7. 1. 21) ・資料2-5-1 令和6第3回医学部医学科運営会議議事要録 (R6. 6. 26) 及び資料 ・資料6-2-1 令和6年度学外病院の指導医向けFD通知文
質的向上のための水準 適合
特色ある点 ・寄附講座として「地域医療総合支援学講座」、「南砺・地域医療支援学講座」および「朝日・地域医療支援学講座」を設置し、地域へ医師派遣を行っている。
改善のための示唆 ・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・特記事項なし 【今後の計画】 ・特記事項なし
改善状況を示す根拠資料 ・該当なし

6. 3 情報通信技術

基本的水準 適合
--

特色ある点 ・なし
改善のための助言 ・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・特記事項なし 【今後の計画】 ・特記事項なし
改善状況を示す根拠資料 ・該当なし
質的向上のための水準 適合
特色ある点 ・学生は学外から電子教材へアクセスすることが可能であり、自己学修の環境が整っている。 ・学生が記載した電子カルテを指導教員が確認するシステムが機能している。
改善のための示唆 ・診療参加型臨床実習を効率よく行えるように、学生が使用できる電子カルテ端末を十分に確保することが望まれる。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・特記事項なし 【今後の計画】 ・診療参加型臨床実習の効率的な実施のための電子カルテ端末の効果的な利用について今後も検討する。
改善状況を示す根拠資料 ・該当なし

6. 4 医学研究と学識

基本的水準 適合
特色ある点 ・大学の特色である「和漢医薬学」、「認知情動脳科学」などの医学研究に関連した教育を低学年から行っており、医学研究と教育が関連づけられている。
改善のための助言 ・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・特記事項なし 【今後の計画】 ・特記事項なし
改善状況を示す根拠資料 ・該当なし

質的向上のための水準 適合
特色ある点 ・「和漢医薬学」や「認知情動脳科学」など、大学の特色のある分野の医学研究と教育が融合して行われていることは評価できる。
改善のための示唆 ・3年次の研究室配属では、成果の発表機会を与えるなどにより、一層の研究の奨励を行うことが望まれる。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・特記事項なし 【今後の計画】 ・最終日などに成果発表会の機会導入を検討する。
改善状況を示す根拠資料 該当なし

6. 5 教育専門家

基本的水準 適合
特色ある点 ・卒前・卒後の教育を統括する医師キャリアパス創造センターが設置されている。
改善のための助言 ・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・教育専門家や医学教育研究者が、カリキュラム開発委員会など新設された委員会運営に参加し、カリキュラム改善に取り組んでいる。 【今後の計画】 ・特記事項なし
改善状況を示す根拠資料 ・該当なし
質的向上のための水準 適合
特色ある点 ・なし
改善のための示唆 ・学内のみならず、学外の教育専門家をさらに活用することが望まれる。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・臨床実習前において、EBM教育のため学外の教育専門家の招聘による指導を受けている。 【今後の計画】 ・学外の教育専門家との意見交換などに今後も積極的に取り組む。
改善状況を示す根拠資料 ・該当なし

6. 6 教育の交流

基本的水準 適合
特色ある点 ・海外留学プログラムにより、海外で臨床実習を行った学生の活動を周知している。
改善のための助言 ・国内の他教育機関との学生の交流をさらに推進すべきである。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・文部科学省補助金「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」において、社会医学に焦点を当てたサマースクールを富山大学と新潟大学の医学生の参加により合同で実施し、国内の医療機関の学生との交流を推進している。 【今後の計画】 ・上記サマースクールについて、人数の拡充に取り組むことに加え、別の教育機会での合同授業や実習への発展に取り組む。
改善状況を示す根拠資料 ・資料2-4-6 サマースクール関係資料（令和6年度）
質的向上のための水準 適合
特色ある点 ・海外へ派遣する学生、海外から受け入れる学生に対する支援が組織的に実施されている。
改善のための示唆 ・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・令和6年度は、モナッシュ大学マレーシア校医学健康科学部及びオーストラリア・リバーランドマリー クーロン地域保健ネットワークとの間で、学生交流等を目的とした部局間交流協定を締結した。 【今後の計画】 ・海外への派遣・受け入れの組織的な支援が拡充できるよう継続して取り組む。
改善状況を示す根拠資料 ・資料6-6-1 協定書

7. 教育プログラム評価

7. 1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準 部分的適合
特色ある点 ・なし
改善のための助言 ・カリキュラムの教育課程と学修成果をモニタし、教育プログラム評価を行う、責任ある独立した

組織を構築すべきである。

- ・医学教育に関する委員会組織の責任と役割分担を明確にし、教育プログラム改善のためのPDCAサイクルを確実に回す体制を構築すべきである。

- ・教育プログラムを評価するために必要なモニタリング項目を再検討し、客観的な指標をもとに評価を行うべきである。

- ・「富山大学医学部医学科コンピテンシー」ならびに「富山大学医学部医学科コンピテンシー科目対応表（マイルストーン）」を指標として、全学年にわたる学生の学修成果修得状況をモニタすべきである。

- ・客観的な学修成果の修得度評価をもとにして、教育プログラムを評価し、課題を特定し、その結果をカリキュラムに反映するシステムを構築すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・カリキュラム評価委員会により、カリキュラムの教育課程と学修成果のモニターを通じて、教育プログラム評価を継続的に実施している。

- ・医学教育に関する委員会組織の責任と役割分担は、令和5年度第8回医学科運営会議において、カリキュラム開発委員会・医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・医学教育推進専門委員会の4委員会が、教学に関わる各委員会の体制として整理され明確化され、継続反復的に教育プログラム確認のためのPDCAサイクルの循環促進に取り組んでいる。

- ・令和6年度より新設されたカリキュラム開発委員会により、教育カリキュラムの開発を行っている(P)。医学科教務委員会を通じて、各診療科・講座の教員からのフィードバックを公平かつ系統的に収集している(D/C)。また、カリキュラム評価委員会により、実施カリキュラムの評価・教育プログラム評価を実施している(A)。

- ・教育プログラムを評価するためのモニタリング項目として、医師キャリアパス創造センターにより学生・教員からのフィードバック(アンケート、CC-EPOC)の取得を行っている。また、臨床実習での形成的評価に用いられているCC-EPOCやmini-CEXなどを利用して、教育プログラムの評価や医学部医学科FDに活用している。

- ・令和6年度シラバス改定時に、各科目目標とコンピテンシー・マイルストーンの記載を教員へ依頼した。令和7年度シラバスからコンピテンシー・マイルストーンの評価を明示している。

【今後の計画】

- ・「富山大学医学部医学科コンピテンシー」ならびに「富山大学医学部医学科コンピテンシー科目対応表（マイルストーン）」を指標とした学修成果習得状況のモニタリングは、カリキュラム評価委員会において評価を行う予定である。

- ・カリキュラム開発委員会、医学科教務委員会、カリキュラム評価委員会の3委員会の明確な役割分担により、医学教育の教育プログラム改善のPDCAサイクルを確実に実行しており、今後も教育プログラム評価・課題特定・結果反映に継続的に取り組む。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料7-1-1 医学部医学科の教育プログラム管理(令和5年度第8回医学科運営会議資料)
- ・資料2-5-2 令和6年度第2回医学部医学科FD資料(R6.11.11 CC-EPOC分析データ:医行為実施経験ほか)
- ・資料1-3-4 令和7年度シラバス作成時の留意事項

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

・大学の置かれた状況、カリキュラムの問題点、学修成果修得度、社会的責任など、教育プログラム改善に資するさまざまな項目の評価法を開発し、客観的な評価結果を示すことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

・大学の置かれた状況、カリキュラムの問題点、社会的責任を把握し対応するため、医学科教務委員会・カリキュラム開発委員会に医学生や外部評価者の参加を得ることで大学の置かれた状況や社会的責任についての多面的な視点を導入した。加えて、令和6年度に医学生のアンプロフェッショナルな行動に関わる報告システムの導入や医学生からの医療安全に関わるインシデント・レポート報告を導入し、社会的な説明責任を果たすことに取り組んだ。

・令和6年度は、医学生からのベスト指導医・診療科アンケートを導入し、多面的かつ客観的なカリキュラム改善のための情報収集と分析を行った。また、医学生のアウトカムや医行為実施経験等CC-EPOCの結果を分析した。これらの分析データは、教育プログラムと教育実践の双方の改善のために、客観的な評価結果として医学部医学科FD、医学科教務委員会等を通じて医学教育に関わる教員へフィードバックされた。

・学修成果習得度の開発・改良のため、コンピテンシー・マイストーンを含めた教育プログラム・カリキュラムに関するアンケート調査（学生・教員を対象）を実施しており、この結果を踏まえて、医学科教務委員会・カリキュラム開発委員会において検討を行った。

・各種アンケート（カリキュラム、臨床実習、早期介護体験実習、教員向け）の質問項目については、関係委員会等において、毎年度ブラッシュアップを実施している。

【今後の計画】

・医学科教務委員会・カリキュラム開発委員会において、教育プログラム改善のための多面的評価方法の開発と客観的な評価結果の提示に継続的に取り組む。

改善状況を示す根拠資料

・資料1-3-2 令和6年度第8回医学部医学科運営会議議事要録及び資料（R6.11.27）（学生の不適切と考えられる態度・行為に関する報告に係る運用について）

・資料7-1-2 ベスト指導医・診療科アンケート

・資料2-5-2 令和6年度第2回医学部医学科FD資料（R6.11.11 CC-EPOC分析データ：医行為実施経験ほか）

・資料7-1-3 教育プログラム・カリキュラムに関するアンケート調査（医学生）

・資料7-1-4 教育プログラム・カリキュラムに関するアンケート調査（教員）

7. 2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準 部分的適合

特色ある点

・学生からの授業評価、卒業生からの学修成果修得度の自己評価結果を、医師キャリアパス創造センターのIR機能が定期的に収集、集計、解析している。

改善のための助言

・学修成果修得度などを指標とした教育プログラムに関するフィードバックを、多くの教員から系統的に受ける仕組みを構築し、分析し、対応すべきである。

・教員と学生からのフィードバックを客観的に分析し、対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

・医師キャリアパス創造センターにより学生・教員からのフィードバック（アンケート、CC-EPOC）を取得している。 ・令和5年度末に教員からの教育プログラム・カリキュラムに関するアンケート調査を実施し、令和6年度のカリキュラム評価委員会で検討した。 【今後の計画】 ・医師キャリアパス創造センターが収集したフィードバックをカリキュラム評価委員会で検討し、その検討結果からカリキュラム開発委員会でカリキュラム改善を継続する。
改善状況を示す根拠資料 ・資料7-1-3 教育プログラム・カリキュラムに関するアンケート調査（医学生） ・資料7-1-4 教育プログラム・カリキュラムに関するアンケート調査（教員） ・資料1-4-1 令和6年度第1回医学科カリキュラム評価委員会議事要旨（R7.2.10）
質的向上のための水準 部分的適合
特色ある点 ・学生からの授業評価、学修成果修得度評価をもとに教育プログラム改善を行っている。
改善のための示唆 ・教員と学生からのフィードバックをもとに、教育プログラム全体を俯瞰したうえで、教育プログラムを開発することが望まれる。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【改善状況】 ・医師キャリアパス創造センターにより収集されたフィードバックを利用して、カリキュラム評価委員会により教育プログラムを俯瞰して改善について検討し、カリキュラム開発委員会により教育プログラムの改訂を行う。 ・令和5年度末に教員からの教育プログラム・カリキュラムに関するアンケート調査を実施し、令和6年度のカリキュラム評価委員会で検討した。 ・臨床実習を終えた6年生から良い臨床実習指導を行った指導医・診療科に関するフィードバックを得て、各委員会において情報共有・議論を行うことで、継続的な教育プログラムの開発・改善の取り組みを行った。 【今後の計画】 ・教育プログラムを評価するための情報収集（教員及び学生を対象）を反復し、カリキュラム評価委員会での検討を通じて、カリキュラム開発委員会により教育プログラムの改訂を持続的・循環的に継続する。
改善状況を示す根拠資料 ・資料7-1-3 教育プログラム・カリキュラムに関するアンケート調査（医学生） ・資料7-1-4 教育プログラム・カリキュラムに関するアンケート調査（教員） ・資料1-4-1 令和6年度第1回医学科カリキュラム評価委員会議事要旨（R7.2.10） ・資料1-4-2 医学科教務委員会内規 ・資料1-4-3 医学科カリキュラム評価委員会内規 ・資料1-2-1 医学科カリキュラム開発委員会内規

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準 部分的適合
特色ある点

・卒業生に対して「富山大学医学部医学科コンピテンシー」修得度のアンケート調査を定期的の実施している。

改善のための助言

・学生と卒業生の実績に関する客観的な指標の解析結果をもとに、使命・学修成果、カリキュラム、資源の提供について評価し、見直しを行う体制を構築すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

・学生の実績に関する客観的な指標の評価・解析のため、学生の臨床実習における形成的評価（mini-CEXなど）、総括評価（CC-EPOCにおけるコンピテンシー・マイルストーンの関連づけ）の結果を利用している。令和6年度よりpost CC-OSCEの自大学課題の評価表にコンピテンシーを示し、コンピテンシー、マイルストーンと関連づけ、卒業時点での学修成果の総括評価を実施している。これらの解析結果を医学部医学科FD、医学科教務委員会において共有し、議論することを通じて、教育プログラムの継続的な改良への取り組みの実施体制を構築した。CC-EPOC解析結果（医行為や経験した症状など）は、カリキュラム評価委員会で学生も含めて検討・評価を行った。

・卒業生の実績に関する客観的な指標の評価・解析のため、卒業生のアンケート調査などを利用している。解析結果は、全学FD委員や医学教育学で確認し、検討・評価を行った。

・令和6年度にカリキュラム評価委員会、カリキュラム開発委員会、医学教育推進専門委員会を新設し、当該委員会を定期的の実施している。

・富山大学独自コンピテンシーである「和漢診療学」および「富山県を含む地域医療」の総括評価についても、関係診療科（和漢診療科、総合診療科：地域医療実習、学外病院）でのCC-EPOCや内科統合卒業試験を通じて実施している。

【今後の計画】

・カリキュラム評価委員会の定期的な実施と、カリキュラム開発委員会へのフィードバックを継続的に実施する。

・卒業試験の筆記試験に関しても、臨床実習後OSCEや臨床実習と同様に、大学独自のコンピテンシーをシラバスや臨床実習の手引きを通じて明示する。

・富山大学独自のコンピテンシーについての総括評価について今後検討する。

改善状況を示す根拠資料

・資料7-3-1 Post CC-OSCE評価表

・資料2-5-2 令和6年度第2回医学部医学科FD資料（R6.11.11 CC-EPOC分析データ：医行為実施経験ほか）

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

・学生の入学前における背景、成績、入試区分と、入学後の実績について、コホート研究を進めていることは評価できる。

改善のための示唆

・現在進行中のコホート研究の解析結果をもとに、カリキュラムや学生カウンセリングの改善に反映することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

・CC-EPOCによる形成的評価とプログラム評価に取り組み、医学部医学科FDで教員への周知と実習などへの反映の重要性の周知を行った。

・カリキュラム評価委員会により、様々な情報を収集し、教育プログラムの効果の検討に取り組ん

でいる。

・CC-EPOCによる経験医行為の実績の分析結果を踏まえ、シミュレーション実習の実施などカリキュラム改善を行った。

【今後の計画】

・コホート研究の解析結果やその他の評価を基盤として、カリキュラム評価委員会と入試委員会の協働によりカリキュラムの見直しを進め、入試区分などに反映させるための検討を実施する。

・入学時点の成績と入学後の成績の関連について全学との協働を含めて検討する。

改善状況を示す根拠資料

・資料2-5-2 令和6年度第2回医学部医学科FD資料 (R6.11.11 CC-EPOC分析データ：医行為実施経験ほか)

・資料1-4-3 医学科カリキュラム評価委員会内規

7. 4 教育の関係者の関与

基本的水準 部分的適合

特色ある点

・なし

改善のための助言

・学生を含む主要な教育に関わる構成者が、教育プログラム全体についてモニタし評価する仕組みを構築すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

・学生を含むメンバーにより構成されるカリキュラム開発委員会、カリキュラム評価委員会、医学科教務委員会の3委員会により、教育プログラム全体の把握・改善・実行が循環的に行われる体制を構築した。令和6年度より、医学教育に関わる医学部医学科の助教・講師・准教授全員と、附属病院の准教授等から構成される医学教育推進専門委員会を実施し、医学教育にかかわる構成者はより幅広いものとなった。

【今後の計画】

・上記3委員会によるPDCAサイクルによる教育プログラムの改善の取り組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

・資料7-1-1 医学部医学科の教育プログラム管理 (令和5年度第8回医学科運営会議資料)

・資料1-2-3 令和6年度第1回医学科教務委員会議事録 (R6.4.15)

・資料1-4-1 令和6年度第1回医学科カリキュラム評価委員会議事要旨 (R7.2.10)

・資料1-2-2 令和6年度第1回医学科カリキュラム開発委員会議事要旨 (R6.5.2)

・資料7-4-1 医学教育推進専門委員会内規

・資料7-4-2 令和6年度第1回医学教育推進専門委員会議事要旨 (R6.5.28)

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

・学生ならびに卒業生からの授業評価の結果を大学ホームページで公開している。

改善のための示唆

・学生アンケートだけではなく、教育プログラム全般に関する評価結果を広い範囲の教育の関係者に閲覧することを許可し、意見を求める仕組みを構築することが望まれる。

・患者、公共の医療の関係者などから富山大学医学部医学科のカリキュラムに関する意見聴取の

機会を設けることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・ 学生代表の意見をカリキュラム評価委員会で検討し、カリキュラム改善に取り組んでいる。
- ・ 令和6年度より、医学教育に関わる医学部医学科の助教・講師・准教授全員と、附属病院の准教授等から構成され医学教育推進専門委員会を実施し、CBT、OSCEの結果やCC-EPOC、ベスト指導医・診療科に関わる情報の開示・議論することを通じて、より幅広い教育関係者に情報共有できる体制を構築した。
- ・ カリキュラム開発委員会・カリキュラム評価委員会・医学科教務委員会委員会には医学科外の参加者も含まれており、富山大学医学部医学科のカリキュラムに関する多様な視点からの意見聴取の機会を設けている。

【今後の計画】

- ・ 令和7年度から「富山大学医学部医学科臨床実習運営協議会」を再開し、学外実習先からの情報収集や意見交換を行う予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2-5-2 令和6年度第2回医学部医学科FD資料 (R6. 11. 11 CC-EPOC分析データ：医行為実施経験ほか)
- ・ 資料1-2-1 医学科カリキュラム開発委員会内規
- ・ 資料1-4-3 医学科カリキュラム評価委員会内規
- ・ 資料1-4-1 令和6年度第1回医学科カリキュラム評価委員会議事要旨 (R7. 2. 10)
- ・ 資料1-4-2 医学科教務委員会内規
- ・ 資料7-4-1 医学教育推進専門委員会内規
- ・ 資料7-4-2 令和6年度第1回医学教育推進専門委員会議事要旨 (R6. 5. 28)

8. 統轄および管理運営

8. 1 統轄

基本的水準 部分的適合

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 教学に関わる各委員会の責任と役割分担を明確にし、規定すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・ 令和5年度第8回医学科運営会議において、カリキュラム開発委員会・医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・医学教育推進専門委員会の4委員会が、教学に関わる各委員会の体制として整理され、各委員会の責任と役割分担が明確化された。(令和6年4月1日より施行)
 - カリキュラム開発委員会：教育プログラムを開発する。
 - 医学科教務委員会：カリキュラム全般を実行する。教育プログラムの運営にリーダーシップを有する。
 - カリキュラム評価委員会：カリキュラムの評価を行う。
 - 医学教育推進専門委員会：CBT/OSCEを実施する。

【今後の計画】 ・カリキュラム開発委員会・医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・医学教育推進専門委員会の4委員会によって継続的に教育を改善し、管理運営してゆく。
改善状況を示す根拠資料 ・資料1-2-1 医学科カリキュラム開発委員会内規 ・資料1-4-2 医学科教務委員会内規 ・資料1-4-3 医学科カリキュラム評価委員会内規 ・資料7-4-1 医学教育推進専門委員会内規
質的向上のための水準 部分的適合
特色ある点 ・決定事項のうち、学内外への公表が必要と考えられるものについては、大学ホームページを介して適切に公表されている。
改善のための示唆 ・教学に関わる各委員会に主な教育の関係者ならびにその他の教育の関係者の意見を反映させることが望まれる。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【改善状況】 ・令和5年度第8回医学科運営会議において、カリキュラム開発委員会・医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・医学教育推進専門委員会の4委員会が、教学に関わる各委員会の体制として整理された。これにより、教学に関わる各委員会の責任と役割分担が明確化された。 ・加えて、上記4委員会について、医学生、医学科以外の教員が参加しており、以前より多面的な教育課題の検討が可能となった。例えば、カリキュラム評価委員会では、医学生に加えて教育学部の教授などのその他の教育の関係者からの意見を聴取した。 ・令和6年度より新設された医学教育推進専門委員会は医学部医学科の助教・講師・准教授全員と、附属病院の准教授から構成され、これまでの教授から構成される医学科運営会議とあわせて、文字通り教育に関わる全ての教員が教学の実施に関与できる仕組みを構築した。 【今後の計画】 ・4委員会による教学に関する検討・改善への取り組みを継続する。 ・薬学・看護学などの教員等からの意見集約などについても検討する。
改善状況を示す根拠資料 ・資料1-2-1 医学科カリキュラム開発委員会内規 ・資料1-4-2 医学科教務委員会内規 ・資料1-4-3 医学科カリキュラム評価委員会内規 ・資料8-1-1 カリキュラム評価委員会委員名簿 ・資料7-4-1 医学教育推進専門委員会内規

8. 2 教学における執行部（Ver2.33：教学のリーダーシップ）

基本的水準 部分的適合
特色ある点 ・なし
改善のための助言 ・教育プログラムを運営する教学のリーダーシップの責務を明確にし、規定に定めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

・学長は学長選考監察会議、医学部長は医学部長選考規則および学長が任免権を有すること、医学科教務委員会は医学科運営会議、その他カリキュラム関係会議は医学科教務委員会により評価を行う体制が構築されている。学長・学部長・委員会の長などの教学のリーダーシップの責務について、富山大学の学長については、「富山大学役員規則」、「富山大学学長選考規則」および「富山大学学長の解任手続に関する規則」で示されている。また、医学部長の責務と選考は、「富山大学学部長選考規則」、「富山大学医学部長候補者推薦細則」で示されている。医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・カリキュラム開発委員会のリーダーシップ評価は、各委員会の内規により責務等が示されている。

・令和5年第8回医学科運営会議において、医学科教務委員会とカリキュラム委員会の2委員会が教学に関わっていたものを、教育プログラムの開発を行う「カリキュラム開発委員会」、教育プログラムの実行を行う「医学科教務委員会」（カリキュラム全般の実施）「医学教育推進専門委員会」（CBT/OSCEの実施）、カリキュラムの評価を行う「カリキュラム評価委員会」（カリキュラム委員会より名称変更）の4委員会により教学に関わる体制として構築することが承認された。これによって、医学科教務委員会が教育プログラムの運営にリーダーシップを有していることが明示された。なお、本体制は令和6年4月1日より施行された。

【今後の計画】

・医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・カリキュラム開発委員会・医学教育推進専門委員会により教学に関する検討を継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料8-2-1 富山大学役員規則
- ・資料8-2-2 富山大学学長選考規則
- ・資料8-2-3 富山大学学長の解任手続に関する規則
- ・資料8-2-4 富山大学学部長選考規則
- ・資料8-2-5 富山大学医学部長候補者推薦細則
- ・資料7-1-1 医学部医学科の教育プログラム管理（令和5年度第8回医学科運営会議資料）
- ・資料1-4-2 医学科教務委員会内規

質的向上のための水準 部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

・医学部の使命と「富山大学医学部医学科コンピテンシー」に則した教学のリーダーシップ評価を行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

・学長・学部長・委員会の長などの教学のリーダーシップ評価について、富山大学の学長については、「富山大学役員規則」、「富山大学学長選考規則」および「富山大学学長の解任手続に関する規則」により責務・選考手順が示され、学長選考監察会議により評価される。また、医学部長は、「富山大学学部長選考規則」、「富山大学医学部長候補者推薦細則」により責務・選考手順が示され、医学部長選考規則および学長が任免権を有し、学長による評価を受ける。

・医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・カリキュラム開発委員会のリーダーシップ評価は、各委員会の内規により責務等が示されており、医学科教務委員会は年度ごとに医学科運営会

議により、その他カリキュラム関係委員会は医学科教務委員会により評価される。

・委員選出にあたっては、基礎系・臨床系からバランス良く人選する方針としており、令和7年度の委員改選の際にもこのとおり実施したのに加えて、各委員会には医学教育の専門教員（医学教育学講座）も委員として選出されている。

【今後の計画】

・医学部の使命と「富山大学医学部医学科コンピテンシー」に則した教学のリーダーシップ評価について、医学部長・医学科長・教務委員長や各委員会の委員選出に際しては、医学部の使命と「富山大学医学部医学科コンピテンシー」の達成を目的として継続的に検討している。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料8-2-6 富山大学学長選考・監察会議規則
- ・資料8-2-1 富山大学役員規則
- ・資料8-2-2 富山大学学長選考規則
- ・資料8-2-3 富山大学学長の解任手続に関する規則
- ・資料8-2-4 富山大学学部長選考規則
- ・資料8-2-5 富山大学医学部長候補者推薦細則
- ・資料1-4-2 医学科教務委員会内規
- ・資料1-4-3 医学科カリキュラム評価委員会内規
- ・資料1-2-1 医学科カリキュラム開発委員会内規
- ・資料8-2-7 各委員会委員名簿

8. 3 教育予算と資源配分

基本的水準 適合

特色ある点

・カリキュラム実施に必要な教育関係予算を配分するために「部局長リーダーシップ経費」が措置されている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準 適合

特色ある点

・社会の健康上のニーズにより、組織再編による講座やセンターの新設、寄附講座の開設を推進している。令和6年度年、医学部50周年事業として、シミュレーションセンターの一元化を行い、シミュレーターの利用がより容易となった。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

- ・資料2-1-2 医学部50周年記念誌 P52 シミュレーションセンター

8. 4 事務と運営

基本的水準 適合
特色ある点 ・ 医薬系事務部と病院事務部が協働で、医療系教育の運営と資源配分を行っている。
改善のための助言 ・ なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 ・ 令和5年4月に医薬系事務部と病院事務部の2つの部を杉谷地区事務部に統合し、医学部・病院の事務・運営における連携強化、さらには医療系教育の運営体制の改善を図っている。
改善状況を示す根拠資料 ・ 資料8-4-1 富山大学事務組織規則
質的向上のための水準 適合
特色ある点 ・ なし
改善のための示唆 ・ 事務職員のStaff Development (SD)を充実させることが望まれる。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【現在の状況】 ・ カリキュラム委員会（現・カリキュラム評価委員会）における学生からの事務職員に対する要望は、学務課職員が出席しているために容易に周知される仕組みになっている。 ・ 事務職員のSDについては、定期的実施されている。 【今後の計画】 ・ 医学教育に特化したSDの可能性について検討を行う。
改善状況を示す根拠資料 ・ 資料8-4-2 SDに関する資料

8. 5 保健医療部門との交流

基本的水準 適合
特色ある点 ・ 地域社会や行政の保健医療部門と積極的に交流を行っている
改善のための助言 ・ なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 ・ なし
改善状況を示す根拠資料 ・ なし
質的向上のための水準 適合
特色ある点 ・ なし

改善のための示唆
・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画
・なし
改善状況を示す根拠資料
・なし

9. 継続的改良

基本的水準 部分的適合
特色ある点 ・なし
改善のための助言 ・ 教学に関わる各委員会の責任と役割分担を明確にし、教育プログラム評価を適切に行う仕組みを構築し、継続的な改良を行うべきである。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 【改善状況】 ・ 令和5年度第8回医学科運営会議においてカリキュラム開発委員会・医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・医学教育推進専門委員会の4委員会が、教学に関わる各委員会の体制として整理され、令和6年4月1日から施行された。 ・ 以下の体制を構築することが承認され、医学教育におけるPDCAサイクルを回せるようにした。 カリキュラム開発委員会：教育プログラムを開発する。 医学科教務委員会：カリキュラム全般を実行する。教育プログラムの運営にリーダーシップを有する。 カリキュラム評価委員会：カリキュラムの評価を行う。 医学教育推進専門委員会：CBT/OSCEを実施する。 上記4委員会により、教育プログラム評価の適切な実施のために、PDCAサイクルによる教学の継続的改良に取り組んでいる。 【今後の計画】 ・ 今後もPDCAサイクルによる教学の継続的改良に取り組む。
改善状況を示す根拠資料 ・ 資料7-1-1 医学部医学科の教育プログラム管理（令和5年度第8回医学科運営会議資料） ・ 資料1-2-1 医学科カリキュラム開発委員会内規 ・ 資料1-4-2 医学科教務委員会内規 ・ 資料1-4-3 医学科カリキュラム評価委員会内規 ・ 資料7-4-1 医学教育推進専門委員会内規